

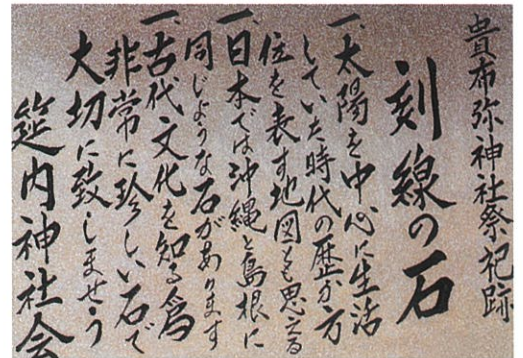
線刻石の謎

筵内・旧貴布祢神社
庄・綿津見神社



筵内・旧貴布祢神社跡後方の繁みまで神域だった。

線刻については分からないことばかりである。
貴布祢神社も綿津見神社も祭神は水や雨を司る龍神である。
祭りは祈りと感謝の6月と11月になっている。



案内板には刻線と書かれてある。線刻が正しい使い方である。



直線で方向は一定しない。



庄・綿津見神社遠景

明治の神社令以前は難陀龍王社と呼ばれていた。

祈雨（雨乞い）止雨（長雨が止むこと）を線刻で凡その判断をしたり、絵馬や如来像を彫り、龍神に祈願したのかも知れない。

綿津見神社には三ヶ所に線刻石があり、時代と共に他用途に転用されている。

石段入口左では手洗石として境内より降ろされている。

地震で倒れ線刻部が蔭になっている。

又庚申塔を集めたところには庚申塔に転用されたものもある。



転用された線刻石



筵内の貴布祢（貴船）神社があった地域や、本庄は近くに河はなく、絶えず旱魃に苦しめられている。

八百万（やおよろず）の神＝天神様や龍神様に祓いを求めたのもそのような地理的条件があったと思われる。

神社の数も減りつつあり、先祖の願いが込められたものがあなたに見出されるのを待っているかも知れない。

地震、倒壊で祭神を示す円形の二つの石も不明となっている。